



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	地名を読む(サス、サシ)
Author(s)	長瀬, 瑞己
Citation	研究紀要/東京学芸大学附属高等学校大泉校舎, 28: 73-90
Issue Date	2003-12-15
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/10205">http://hdl.handle.net/2309/10205</a>
Publisher	
Rights	

## 地名を読む (サス、サシ)

前 言

『角川日本地名大辞典』の巻末に付せられた「小字一覽」を利用して、関東を中心とした地域における「サス」地名の広がり調べた。

同時に、有関かと思われる姓(サスガ、サシダ)の集住している地域についても電話帳を利用して調べ、その原義を考察した。

「サシ」については推論の域を出ず確定することが難しいため、より広い範囲の資料を参考として掲げるに止めた。

凡 例

- 一、大字も採録の対象とした。
- 二、地名の下の(漢数字)は、当該地名が記載されている同辞典の頁数である。
- 三、原資料の振り仮名は、その下に(ひらがな)で示した。(引用文献も同様)
- 四、旧行政区で記された資料の内、必要なものは現行の市区町村名を注記した。
- 五、「差出」、「差越」等、別語の可能性の高いものも、全て採録した。
- 六、更に、振り仮名が誤読の可能性のある地名も、採録の対象とした。
- 七、「武蔵」を含む地名は、採録の対象外とした。
- 八、\*印は、「小字一覽」以外の資料に依った地名である。
- 九、使用した電話帳の年次は、次の通りである。

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| 山梨県      | …二〇〇一、一、二九現在。         |
| 西多摩版     | …二〇〇一年代から、二〇〇二年代現在。   |
| 川越・所沢版   | …二〇〇一、七、一一現在。         |
| 武蔵野版・その他 | …二〇〇一年代から、二〇〇三、四、一現在。 |

十、地形図の地名検索に、アボック社『新日本地名索引』を使用した。

引用文献等略号一覽(▽印は、字体等の表記を改めた部分がある)

地形…国土地理院二五〇〇〇地形図。「」内は、地形図名。

索引…アボック社『新日本地名索引』

◇焼畑関係◇

赤資…アボック社『新日本地名索引・レッドデータ』

武蔵…▽『新編武蔵風土記稿』雄山閣版

甲斐…▽『甲斐国志』雄山閣版

山名…三省堂『コンサイス日本山名辞典』一九八八年

総覧…白山書房『日本山名総覧』一九九九、三、現在

名寄…川野村「名寄帳」(奥多摩町教育委員会編『杉田家文書』)

蟬指…▽高橋源一郎「蟬指探検」昭和七年筆(『多摩の山と水・下』所収)

奥多…瓜生卓造「奥多摩町異聞」東京書籍・昭和五七年

青梅…中西慶爾「青梅街道」木耳社・昭和五七年

多摩…保坂芳春「多摩の地名」武蔵野郷土史刊行会・昭和五四年

民俗…吉川弘文館『日本民俗大辞典』一九九九年

◇水系関係・他◇

東金…東金市『東金市史・六・通史篇・上』一九九三年

輪内…北船木史稿刊行会『輪ノ内の昔』一九九一年

日葡…岩波書店『邦訳・日葡辞書』

長瀬 瑞 己

(注) 始めに焼畑を意味する「サス地名」の分布範囲を確定すべく、北から南西へと「小字一覧」をたどって行く。

群馬県

サス ……北甘楽郡、六車村(二三八六)

サス ……甘楽郡、南牧村

サス ……北甘楽郡、六車村(二三八六)

サス ……同

差合(さしあわせ) ……西群馬郡、上白井(かみしろい)村(二四〇三)

差出 ……北群馬郡、子持(こもち)村

差出 ……西群馬郡、下小鳥(しもことり)村(二四〇六)

指房 ……高崎市、下小鳥町

指房 ……南甘楽郡、麻生村(二四一四)

小ザス ……多野郡、万場町、大字麻生

小ザス ……南甘楽郡、神原村(二四一四)

小ザス ……多野郡、中里村、大字神ヶ原

サス平 ……南甘楽郡、神原村(二四一四)

サス平 ……同

\*サス峰 ……中里村。1174m 総覧

切差(きりさし) ……南勢多郡、下東田面(しもひがしたなほ)村(二四二八)

切差(きりさし) ……勢多郡、粕川村

上指倉(かみしくら) ……南勢多郡山田村、上南室(かみなむろ)(二四二二)

上指倉(かみしくら) ……勢多郡、北橋村

指倉 ……南勢多郡山田村、上南室(二四二二)

指倉 ……同

「サス地名」の北限は群馬県の南部らしく、そこから秩父方面へと延びている。

埼玉県

差間村 ……足立郡(二三八六)

指扇村 ……川口市の大字

指扇村 ……足立郡(二三八八)

指扇村 ……大宮市の大字

小手指原(こてさしはら) ……入間郡、北中村(二三九二)

加佐志村 ……所沢市の大字

加佐志村 ……入間郡(二三九二)

黒指(くろさす) ……狭山市の大字

黒指(くろさす) ……高麗郡、上直竹村上分(二三九八)

黒指(くろさす) ……飯能市の大字

\*黒指 ……飯能市内にもう一個所。二件とも「地形」原市場

\*天目指峠 ……飯能市と名栗村の境。「地形」原市場

\*高指山(たかさしやま) ……日高市。330m 総覧

蟬指(せみさし) 誤読 ……秩父郡、上名栗村(二四〇一)

中指 ……名栗村

中指 ……名栗村。「武蔵」(地形)原市場

中指(こさす) ……秩父郡、太田部(おおたぶ)村(二四〇二)

中指(こさす) ……秩父郡、吉田村「地形」万場

中指(こさす) ……秩父郡、三山(さんやま)村(二四〇二)

中指(こさす) ……小鹿野町「地形」長又

中指(こさす) ……小鹿野町。「地形」秩父

\*中指 ……小鹿野町。「地形」長又

さす ……秩父郡、長留(ながる)村(二四〇二)

さす ……小鹿野町

明ヶ指(みやうヶさす) ……秩父郡、上田野(かみたの)村(二四〇二)

明ヶ指(みやうヶさす) ……荒川村。「武蔵」では「茗荷差」。

大指(おほさす) ……秩父郡、贄川村(二四〇二)

大指(おほさす) ……荒川村「地形」三峰

\*高指

…両神村地形「三峰」

\*白井指

…両神村地形「両神山」武蔵に詳述。

大江指(おほえさし)

…幡羅郡、中奈良村(一四〇七)

…熊谷市の大字

鶴指(つるさし)

…埼玉郡、藤井村上組・下組(一四二二)

…羽生市

鶴指(つるさし)

…埼玉郡、尾崎村(一四二二)

…羽生市

誤読の可能性を棚上げしてみると、「サス」系が埼玉西部の山岳地帯、それに對して「サシ」系は反対側に在る。

境界線上に在る「加佐志」は、読み方に問題はない(末尾の「付記」参照)。「小手指」は、焼畑なら「小指」と呼ばれてしかるべきである。それに「原」とあるとおり山岳地帯ではない。一旦開墾すれば、すぐに定畑となる地である。

一、「サス」の一般的な意味と実態

「サス」は「焼畑」の意とされ、和語としての解釈が難しいことから、朝鮮語に由来するとしている地誌が多い。その理由としては、渡来人がこの地に入植して焼畑農法を伝えたためとされ、古文獻が引き合いに出されている。

確かにその人数は半端ではなく、入植も幾度となく繰り返されている。ただ、このような説明は漠然としていて、確認の仕様がなない。

そこで、本論では、近現代の資料を主として、できる限り具体的に「サス」の語義に迫るべく考察をすすめてみた。

予の目的は勿論、白岩、浦山にあるのだけでも、この分岐点の付近に蟬指(せみざす)といふ地名がある。指といふ語は山中諸所に多くある語である。たとへば、此の付近西多摩郡成木村には極指(きはざす)、黒指(くろざす)といふがあり、入間郡原市場村には黒指といふがある。一体指といふ語はどういふ意味だらうか。一つこの蟬指の地形を調べて見ようと思つて、急に蟬指探検を

発意した。

予は七八町も遠まはりして行くのはいやだから、直ちに此れより谷川を横切り山上の家を目あてに、荆棘と岩かけとを踏んで、山腹を攀じ登り始めた。しかし、登つて見れば、山はなかなか急峻である。

「此処を蟬指といふのは、どういふ訳でせうか」と聞いて見たけれども、それは、このお母さんにも分からなかつた。予は立つて、この家の付近の地形を調べて見た。されど只少しく平地になつて居るだけで、他に何等変りもなかつた。蟬指といふ意味は遂に此処では解釈を得なかつた。

されど、この旅行を終つて帰つてから、指(サス)といふは焼畑のことであるといふ事が分つた。此処は南面して日当のよいところで、しかも若干の平地があるから、昔の人が此処に焼畑を經營したのであらう。

蟬指

こうした焼畑の入植当初の実態は、次のようなものであつた。旧秩父郡の中津川村とその枝郷である白井差の例である。

○中津川村……元禄十年、岡田五右衛門が検地にて、十三石一斗一升五合の貢を、始て納ることとなりしが、その明年に二石四斗四升を分ちて白井差を分郷せり、……山林のみ多く、畑は十分の一にも足らずと云へど、又火耕の畑多し、……稼穡のさまは大滝村などと等しく、焼畑の場所へ廬を結び、季春より初冬に至るまでは、夫妻子母代るがはるここに移住して、平道又は一里も二里も隔りたる山の中腹、或は谷間に居れり、禾熟の時に至りては、昼は猿を防ぎ夜は鹿を逐ひ、夫妻みな処を異にし、あなたこなたと山を踰へ谷を隔てて、仮小屋に通ひて夜な夜な板木を打ち、或は声をあげ、猪鹿を防ごと、疾風雷雨にも息ふことあたはず、其艱難知んぬべし、……

○白井差(しふあさし?ママ)……秩父の方言に差と云る所往々にあり、その故を尋るに、山の草木を焼て、畑をひらきしことを焼畑と云、是を切畑とも云、さてその草木を伐りひらくに二種あり、春伐りを応と云(同年の秋蕎麦を作がためにす)、秋伐りを差と云(来年粟・稗・豆等を作がためにす)、按ず

るにこの白井差もその昔は、焼畑の地へ仮りに廬を結びたるが、遂に民の家  
居となりしものなるべし、又この村の中にも市郎左衛門差など云る所あり、  
……

**武蔵**

東京都

- \*指ヶ谷町(さすがやちよう) …… 現文京区内(各種地名辞典)
- 佐須(さず) …… 調布市、神代村の大字名(二二二一)
- 狩須(かりさず) …… 五日市町、深沢(二二〇八)
- \*佐須峰 …… **武蔵**五日市町、深沢

青梅市

- 野上指(のがみさず) …… 小曾木村、黒沢(二二〇八)
- 高指(たかさず) …… 同
- 新指(あらさず) …… 霞村、上長淵(二二〇九)
- 大新指(おおあらさず) …… 同
- 新指(あらさず) …… 霞村、下長淵(二二〇九)
- 大指(おおさず) …… 成木村、上成木上分(二二〇九)
- 際指(きはさず) …… 同
- (極指:**武蔵**)
- 天ヶ指(あまがさず) …… 成木村、上成木下分(二二〇九)
- 指倉(さすくら) …… 同
- こも指(こもさず) …… 同
- ふさず …… 成木村、北小曾木(二二〇九)
- (注)「ふ」は「ひ」の訛りか?  
…… 北小曾木(二二〇九)
- 利根指(とねさず)

奥多摩町

- ぞうさず …… 小河内村、河内(二二〇九)
- 大さず(おほさず) …… 小河内村、川野(二二〇九)

高さず(たかさず) …… 同

庄のさず(しゃうのさず) …… 同 **地形**『丹波』

ぬかさず …… 同

ぬかさずおみくほ …… 同

\*ぬかさずおくみは …… **名寄** (前者と同地か?)

\*ヌカザス山 …… **地形** 『奥多摩湖』

ぞうさず …… 同 **武蔵** 『どろさず』

\*サス沢山 …… **地形** 『奥多摩湖』

\*日指(ひさず) …… **赤資** (五万『五日市』)

\*日向指 …… **奥多**

あかさず …… **名寄** 小河内村、留浦(とづら)(二二〇九) **地形** 『丹波』

小指(こさず) …… 同

松葉指(まつばさず) …… 古里村、梅沢(二二一〇)

黒指 …… 古里村、小丹波(二二一〇)

小指 …… 同

サス …… 同

ヒナザス …… 同

惣金指(そうかなさず) …… 同

鉄砲指(てっぽうさず) …… 古里村、棚沢(二二一〇)

八味指(はちみさず) …… 同 (八味地黄漢方)

天目指(あまめさず) …… 同 (あまめ豆柿)

農指(のうさず) …… 氷川村、氷川(二二一〇)

\*塩の指(しおのさず) …… **多摩**

\*こんざす山 …… **武蔵** 白丸村(氷川村の隣)

その他

- 摺差(するさし) …… 八王子市、浅川町、上長房(二二二一)
- 大佐寿(おほさず) …… 八王子市、恩方村、上恩方(二二二二)
- 小ザス(こさず) …… 八王子市、由井村(二二二三)

欠差(かけさし) ……日野市、日野町、下田(一一二四)  
 欠差(かけさし) ……日野市、日野町、万願寺(一一二四)  
 欠差(かけさし) ……府中市、西府村(一一二四)  
 \*ハチザス沢 ……檜原村、数馬付近(現地で仄聞)

二、旧小河内村の焼畑

東京西奥の山岳地帯では、「小字一覽」から抽出したこれらの地名群も「サス」という言葉もまたその畑も、つい最近まで生きて使われていた。ダムに沈む前の奥多摩の生活を丹念に聞き書きした記録がある。

指(さす)と畑も目につく。松葉指、\*日向指、鉄砲指、庄ノ指、小指など、指が二ヶ所。峰畑、高畑、中畑など、畑が一ヶ所で、畠は一つもない。

奥多摩はどこへいっても、下よりも山上が広い。「砂利混じりの土だが、見かけよりも、肥えています。陸稲はできないが、里芋やジャガ芋、トウモロコシなどは、上等なものができて、春になると食べきれずに捨てたりもした。

(川井の藤野健一翁談)

「昔は炭焼専門の部落でした。サス畑に雑穀を蒔いて自給自足の生活でした。炭がいいとき、蚕が当たったとき、コンニャク景気のとときなど、ちったあいいときもありましたが、貧乏村で朝から晩まで働き詰めでした。大家さんのところは別ですが…」

(水根の奥平三市郎翁談)

奥多

同書によれば、小河内村内の各地区の名家(ここに言う「大家さん」)の多くは、武田の落ち武者の末裔を自称している。これは、奥多摩への入植が、多摩川下流からではなく、逆の山梨方面から始まったことを示唆している。次に見るとおり、山梨の「小字一覽」で今日地形図上に確認できるのは、「大室指」一件のみである。埼玉の飯能・秩父方面の地形図上に「サス地名」が点々とみられるのとは対照的である。

山梨県

富士吉田市

中ザス(なかさず) ……新屋(一一一三)  
 佐数(さす) ……同  
 サス ……下吉田(一一一三)  
 尾垂影ザス(おたれかげざす) ……同  
 カゲザス ……新倉(一一一三)  
 大権首(おおざす) ……大明日見(一一一三)  
 小権首(こざす) ……同  
 入大権首(いりおおざす) ……同  
 堂谷指(どうやざす) ……小明日見(一一一三)  
 大佐須(おおさす) ……上暮地(一一一三)

都留市

西指(にしさす) ……大野(一一一四)  
 日陰差(ひかげざす) ……鹿留(一一一五)  
 本土差(ほんどざす) ……同  
 日向差(ひなたざす) ……同  
 大ざす(おおざす) ……同  
 ちちうざす ……同  
 杉ざす(すぎざす) ……同  
 本土差上(ほんどざすうえ) ……同  
 うつば差(うつばざす) ……同(うつば草||漢方)  
 棒差(ぼうざす) ……境(一一一五)  
 日影差(ひかげざす) ……大幡(一一一五)  
 川原ザス(かわはらざす) ……大幡(一一一五)  
 善兵ザス(ぜんべいざす) ……大幡(一一一五)

山梨市

影差(かげざし)

…水口(一一一六)

大月市

日影ザス

…笹子町黒野田(一一一七)

コザス

…笹子町白野(一一一七)

隠サス(かげさす)

…同

栗差(くりざす)

…笹子町吉久保(一一一七)

さす平(さすびら)

…大月町花咲(一一一七)

雛ザス(ひなざす)

…大月町真木(一一一七)

川原ザス(かわらざす)

…同

源太ザス(げんたざす)

…同

中ざす(なかざす)

…賑岡町奥山(一一一七)

サスビラ

…賑岡町浅利(一一一七)

カハラサス

…七保町林(一一一八)

佐寿宮(さすみや)

…七保町葛野(一一一八)

桂輪ザス(けいりんざす)

…同

サスマイヤ

…同

木王指(きおうじ)

…猿橋町藤崎(一一一八)

横差(よこざし)

…猿橋町小篠(一一一八)

中さす(なかさす)

…富浜町宮谷(一一一八)

クルミザス

…梁川町塩瀬(一一一八)

サス沢(さすざわ)

…梁川町新倉(一一一九)

東八代郡

佐蔵巢(さぞす||さぞす?)

…御坂町、上黒駒(一一二二)

差平(さへい)

…御坂町、大野寺(一一二三)

西八代郡

下佐ス(しもさす)

…市川大門町、山家(一一二五)

柿先佐ス(かきさきさす)

…同

上差山(かみさすやま)

…市川大門町、八之尻(一一二五)

中差山(なかさすやま)

…同

下差山(しもさすやま)

…同

南巨摩郡

差越(さしこし)

…早川町、初鹿島(一一二八)

南都留郡

土蔵指(どぞうさし)

…秋山村、尾崎(一一三六)

神場指(かんばざし)

…秋山村、富岡(一一三六)

栗指(くりざす)

…道志村、久保(一一三六)

大室指(おおむろざす)

…同

大指(おおざす)

…道志村、川原畑(一一三六)

ほうりさす

…西桂町、倉見(一一三六)

高さす(たかさす)

…同

さすの平(さすのだら)

…同

長差(ながさす)

…西桂町、下暮地(一一三六)

砂須(さす)

…忍野村、内野(一一三六)

西松葉差(にしまつばざし)

…河口湖町、船津(一一三七)

中松葉差(なかまつばざし)

…同

松葉差(まつばざし)

…同

東松葉差(ひがしまつばざし)

…同

中差山(なかさすやま)

…河口湖町、河口(一一三七)

折袴指(きとうさし)

…足和田村、長浜(一一三七)

北都留郡

栗ザス(くりざす)

…上野原町、芦垣(一一三八)

サス

…上野原町、和見(一一三八)

ナギシザス ……同  
 ウツギザス ……上野原町、川合(一一三八)  
 黒ザス(くろざす) ……上野原町、大柗(一一三八)

\*高指山(たかざすやま) ……山中湖村と神奈川県の境。1174m 山名  
 \*高指山(たかざすやま) ……北都留郡小菅村。1070m 山名  
 \*高座山(たかざすやま) ……忍野村と富士吉田市の境。1304m 総覧  
 \*中指山(なかざすやま) ……地形「丹波」  
 \*切差(きりさし) ……地形「塩山」  
 \*サス沢 ……青梅

三、小字名を通して見た「サス」の意味範囲

地名辞書、方言辞典の殆どが「サス」を「焼畑」の意としている。そして、既掲の三つの文献もそれを裏付けているかにみえる。小字群中の「黒ザス」は焼畑であろうし、「善兵」「源太」等の人名を冠した「ザス」も畑に違いない。

ところで「サス地名」は、上記のように、山梨県の桂川沿いに濃厚に分布しており、変化に富んでもいる。そこで、定説を検証するようにして、それらの地名を熟読してみると、焼畑の意では釈然としなないものが見受けられる。樹木名を冠した小字名がそのよい例である。

杉ざす ……都留市  
 栗差 ……大月市  
 クルミザス ……大月市  
 神場指 ……南都留郡、秋山村(神場指榎)  
 栗指 ……南都留郡、道志村  
 栗ザス ……北都留郡、上野原町  
 ウツギザス ……同、(ウツギ卯の花が咲く木)

「杉」は、植林ではなく、目印の大木なのだろうか。「ウツギ」もそうだととして、「榎」の類は、一本の木としてよりは植相として人の目に入るのが普通である。

「栗」は、山栗でも、胡桃(くるみ)とともに食用である。「栗が生えているところにある焼畑」では、実状に合わない。自然に読めば、これらはいずれも山の一区域の植物相を言ったと考えられる。

そこで、「サス地名」が最も密集している大月市内の「小字一覽」から「栗」字を含む地名を拾ってみれば、次のようである。

平栗沢(ひらくりざわ) ……初狩町中初狩  
 ▼平栗(ひらぐり) ……賑岡町畑倉  
 栗林(くりばやし) ……七保町駒宮  
 栗原(くりはら) ……猿橋町猿橋  
 栗ヶ平(くりヶだいら) ……猿橋町藤崎  
 大栗山(おおぐりやま) ……猿橋町殿上  
 ▼平栗(ひらぐり) ……富浜町宮谷  
 ▼豆栗(まめぐり) ……梁川町立野  
 ▼壳栗(うりぐり) ……梁川町立野

▼印は、栗の種類であろう。その他は、地形地名である。とすると、「栗ザス」とは、「沢」でも「林」でも「原」でも「平」でも「山」でもない、自然物ということになる。更に、県内全域を見渡すと、数は少ないものの、次のような対を成す地名が見られる。(振り仮名省略)

堂谷山…富士吉田市、小明日見  
 堂谷指…同  
 本土差…都留市、鹿留  
 本土沢…都留市、大幡  
 大室指…道志村、久保  
 大室沢…同



この三対で見ると、「サス」は、「山」とも対をなし、また「沢」とも対をなしているかに思える。

四、垂木（タルキ）の別名としての又首（サス）

秩父・奥多摩でみたとおりに、「サス」は山中にある。山梨には「河原ざす」が幾つかあるが、これは桂川流域が奥多摩と同じような地勢であることを考慮すれば、別段あやしむに足たりない。

そこで、甲斐国の山岳地帯の「□□サス」という地名が、「小字一覽」とは別個の地誌でどう表記されているのかを見てみれば、次のようである。（原文は、振り仮名も含めて全文カタカナ書き。句読点は無い。）

又峯つづき三ヶ脊山に至る。入会山より峯分れて一里余東に行きて高又（たかざす）山に至る。此の山間相州小田原へ出づる間道あり。

高又より丑に峯つづき殿むれ山と云ふ。……殿むれ山より中の又（ざす）峯を過ぎ大群（おほむれ）山につづく。

鳥打より西に行くこと五町許りにして高峯あり。高又（たかざす）山と云ふ。

又申の方八町許りにして高又（たかざす）山に至る。此の峯は与繩村の方にて御影口と云ふ。嶺の戌亥は朝日小沢、辰巳は朝日馬場に属す。

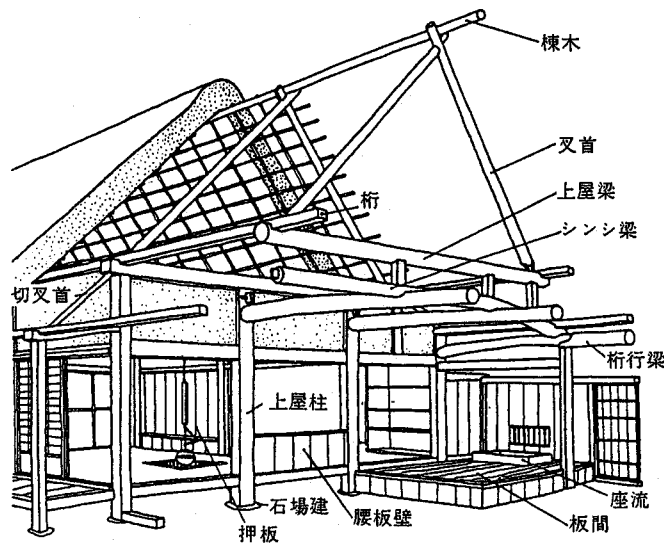
此の峯末申の方は小篠村に属し、丑寅は立野村、辰巳は秋山村なり。此の峰より辰に分れて又山（さすやま）に至る。

又沢（さすざわ）川。綱の上村。さす沢より発し、辰巳に流れて桂川に入り、又上の山より出て桂川に入る水あり。

甲斐（山之部第十六ノ下 都留郡都内領）

「又」字の首は、「シャ」・「サ」であって、これを「サス」・「ザス」と訓ませるのは、どういうことなのだろうか。

考えられるのは「又首（サス）」を略した表記なのではないかということである。又首は建築用語ではあるものの、葺屋根の葺き替えに際しては、集落の皆が目にし、口にする言葉である。



民家の構造と又首

民俗

突飛な発想に思えるかもしれないが、山も屋根も三角形である。そこを斜めに走る丸太は、山の「又首」と言つてよい。それは、尾根ほど大きくはない。一本の「又首」は、山の「筋」とも呼ぶべきものである。焼畑が行われるのは、こうした小さな一区画である。

五、富士山の「サス」

「サスガ」という姓がある。「流石」あるいは「貴家」という表記で、山梨県の勝山村に集中している。

勝山村	：	九〇	〇
河口湖町	：	二四	二四
富士吉田市	：	七	四
甲府市	：	二	六
都留市	：	二	〇
足和田村	：	一	〇
八代町	：	〇	一
石和町	：	〇	一
昭和町	：	一	〇
市川大門町	：	一	〇
その他山梨県全域	：	〇	〇

河口湖町の「サスガ」は湖東、即ち勝山村の下端周辺に集中している。勝山村は富士の北斜面中ほどに在る溶岩流の上に乗った村である。幅一キロメートル足らず、長さ五キロメートル強で、富士山腹の一本の「又首」と言つてよい。

「サスガ」の「ガ」とは、「在り処（アリカ）」・「住み処（スミカ）」などの「カ」で、場所を意味する接尾辞である。「流石」は当て字であるが、「貴家」はこの村が戦国時代から富士の守り役としての任に当たってきたことに基づく表記であろう。湖畔に富士御室浅間神社がある。

「サスガ」とは、もともと地名だったはずである。そこに住む人々の姓に転化した時点で、地名としての「サスガ」は消失したと考えられる。

「流石」という小字が長野県内に見える。地形図上で特定はできないが、参考までに長野県の「サス地名」を採録してみれば、次のとおりである。

長野県

流石 …… 下高井郡、高野村（一六三〇） 〓 飯山市、瑞穂  
 \* 大字「瑞穂」内に三件が見える。

サス原 …… 南佐久郡、北相木村（一六四七） 〓 南佐久郡、北相木村  
 サス沢 …… 南佐久郡、大深山村（一六四八） 〓 南佐久郡、川上村  
 差出 …… 南佐久郡、原村（一六四九） 〓 同  
 差柳 …… 諏訪郡、平野村（一六五四） 〓 岡谷市

六、サスの終焉

奥多摩と桂川流域との間には、丹波村・小菅村・檜原村という空白がある。三村の小字数は、他に比べて極端に少ない。あるいは資料上の制約があるのかもしれない。次は、紀行文の一条である。

こういうあたりでは、道はほとんど北岸を蛇行しているが、南岸では大菩薩などからしばしば細流が流出して来て、オオヤマト沢・ワタクラ沢・\*サス沢・地獄谷・鎌倉沢・シロヨシ沢などの谷をつくっている。

青梅

檜原村について言えば、木材の供給地として早くから杉・松が植林されたことが、焼畑がこの地に入らなかつた理由であろう。

焼畑が消えたのも同じ理由による。青梅のサスの衰亡について、昭和の林業の歴史を集約したような証言がある。

成木川は下つて飯能市内で入間川に合流する。その成木川に沿った狭い谷の集落、それが極指（キワザス）である。

…

極指の手前には大指（オオザス）という部落があるが、西多摩郡の奥多摩町には、とくに「指」のつく地名が多い。\*塩の指（さす）、糠（ぬか）指、赤指、高指、小指、ヒナザス、農指（のうさす）、コモ指などたくさんあげることがで

きる。

……

昔、焼畑の行われていたところは、その付近はほとんど雑木山であった。今から六十年くらい前、大正の初め頃から共有地に杉を植えはじめた。とくに当時東京市が小河内、丹波山の奥に水源涵養林として杉の植栽を進めていたということもあって、山間の人々に植林への関心も高まっていた。

とくに戦後トラツクの発達と造林臨時措置法（昭和二十五年公布）によって、植林のための補助金が出ることになると、青梅地方もたちまち雑木林は杉林に変わっていったのである。（宮本常一氏『武蔵野・青梅』昭和四十六年慶友社刊）。

極指や大指という焼畑の名はあっても、もう焼畑は行われていないし炭焼きもない。雑木の山さえいくばくもなくなってしまったのである。

**多摩**

七、サス地名の範囲

北限は群馬県南端、東限は埼玉県西部、である。南の神奈川と富士山を越えて南西の静岡の状況は、次のようである。

神奈川県

- 佐須（さす） …… 伊勢原市、日向（一三七一）
- 畳指（たたみざし） …… 小田原市、小舟（一三七四）
- 欠差 …… 南足柄市、生駒（一三八二）
- 欠差 …… 同
- 欠サシ …… 南足柄市、千津島（一三八三）
- ナラザス …… 清川村、宮ヶ瀬（一三八六）
- 小ザス …… 津久井町、青野原（一三九〇）

静岡県

欠差（かけさし）

日差ヶ谷（ひさしがや）

ザシ

中ザシ

切差

分サシ

切差

倉サシ

西目指（にしめさし）

目指（めさし）

差出

掛差

掛差

掛差

欠ヶ差

金指町

東指

西金指  
西金指屋敷前

中ザシ

ヤザシ

赤ザシ

梅指

サシ作り

サシ平岩

酉差出（とりさしだし）

差出（さしだし）

差出新田

…… 静岡市、西脇（一四三二）

…… 磐田市、向笠竹之内（一四三三）

…… 天竜市、相津（一四五三）

…… 同

…… 天竜市、両島（一四五六）

…… 沼津市、東原（一四五七）

…… 浜北市、堀谷（一四六一）

…… 浜北市、早出（一四六三）

…… 浜北市、小松下（一四六七）

…… 同

…… 袋井市、西田（一四七一）

…… 藤枝市、水守（一四七七）

…… 藤枝市、前島（一四七七）

…… 焼津市、大（一四八二）

…… 焼津市、惣右エ門（一四八三）

…… 引佐町（一四八四）

…… 同

…… 同

…… 引佐町、鎮玉村、洪川（一四八六）

…… 引佐町、鎮玉村、西久留米（一四八七）

…… 引佐町、奥山村、狩宿（一四八八）

…… 三ヶ日町、岡本（一四九〇）

…… 佐久間町、浦川（一四九三）

…… 佐久間町、大井（一四九五）

…… 福田町、福田（一五〇〇）

…… 福田町、中野（一五〇〇）

…… 大須賀町、西大淵（一五〇一）

- 差出シ新田 ……大須賀町、西大淵(一五〇二)
  - 差出シ ……大東町、浜川新田(一五〇四)
  - 差川(さしかわ) ……松崎町、岩科南側(一五〇九)
  - 差川洞(さしかわぼら) ……同
  - ササシバ ……春野町、越水平(一五一四)
  - ザシ ……春野町、長蔵寺(一五一六)
  - 棚指 ……春野町、堀之内(一五一七)
  - 小指久(こざし) ……修善寺町、大野(一五二六)
  - 小指畑(こゆびばた) ……同
  - 小指山(こざしやま) ……同
  - ワクサシ ……中伊豆町、中原戸(一五二七)
  - サス ……中伊豆町、城(一五二八)
  - 佐須峰 ……同
  - 佐須山 ……同
  - 栢差(うつぎざし) ……中伊豆町、徳永(一五二八)
  - 流石山(さすがやま) ……中伊豆町、上白岩(一五二八)
  - 欠指 ……葦山町、南条(一五二九)
  - ヤケザシ ……川根町、家山(一五三二)
  - 差上り ……同
  - 石(いし)ザシ ……同
  - サシ葉 ……川根町、家山(一五三二)
  - サスガシラ ……川根町、拔里(ぬくり)(一五三二)
- この内焼畑の「サス地名」と疑ってもよいものは、数例に過ぎない。離れてはいるものと同じ地名語彙と認定できるのは「カケサシ」一例のみである。
- 欠差、欠差 ……東京都、日野市
  - 欠差 ……東京都、府中市
  - 欠差、欠差、欠サシ ……神奈川県、南足柄市
  - 欠差 ……静岡県、静岡市

- 掛差、掛差 ……静岡県、藤枝市
- 掛差、欠ケ差 ……静岡県、焼津市
- 欠指 ……静岡県、葦山町

「カケ」は「ハケ」・「バツケ」・「ボツケ」・「ガンケ」などと発音されるが、「崖」である。「サシ」が不明なため、「カケサシ」の意味は確定できない。因みに、福島県の「サス地名」は次の三例のみであるが、この内「崩差」は、「カケサシ」と同意であると思われる。

- 神指(こうざし) ……北会津郡、北四合村(一三二七)
- 東神指境(ひがしこうざしざかい) ……同
- 崩差(くずれざし) ……耶麻郡、三谷村(一三四四)

以上が焼畑を意味する「サス地名」の凡その範囲である。

#### 八、武蔵野

古代の武蔵野では焼畑が行われていた。ムサシノ(武蔵野)や、サネサシ(相模の枕詞)がその証拠で、今日の地名としては埼玉の小手指などにその痕跡をとどめている。……

こうした解説によく出会うが、拙論に当てはめると次のようにならざるを得ない。有史以前から、この地に又首(漢語)を用いた家屋が在り、それは平野部では訛って「サシ」に変化していた。……

「武蔵」は、法令に基づいて好字二字を当てたもので、万葉仮名として読むなら「ムザ」としか読めない。「武蔵」以前の用字法に従って「ムサシ」と読んでいいにすぎない。

无邪志:『古事記』、牟射志野:『万葉集』  
いづれも濁音で、「ムザシ」・「ムザシノ」である。

九、東関東の「サス」と「サシ」

「サシ地名」は、誤読と思われるものを除けば、その数が少ないし、密集して見られるわけでもない。関東の平野部から東海地方にかけて、茫漠と広がっているらしいのである。そこで、反対側の栃木・茨城・千葉をみていく。

栃木県

- サスマタ下  
指(さし)又  
餌差(えさし)  
差(さす)合  
差合(さすあい)  
鶴差(つるさし)  
指合(あい)  
差間田(さすまた)  
指合(あい)  
差(さ)ス合  
差保内(さしぼううち)  
差出(で)  
小指(おさし)  
削差(けつりさし)  
山指  
差又
- …宇都宮市、絹島村(一三五〇)
  - …宇都宮市、絹島村(一三五一)
  - …下都賀郡、姿村、下古山(一三五九)
  - …同、穂積村、下国府塚(一三六二)
  - …同、穂積村、大行寺(同)
  - …同、穂積村、間中(同)
  - …同、豊田村、小宅(同)
  - …同、豊田村、島田(同)
  - …同、豊田村、卒島(同)
  - …同、豊田村、立木(同)
  - …安蘇郡、氷室村、水木(一三六六)
  - …足利郡、久野村、瑞穂野(一三七二)
  - …塩谷郡、栗山村、日向(一三八一)
  - …塩谷郡、片岡村、安沢(一三八七)
  - …塩谷郡、武茂村、富山(一三九三)
  - …茂木町、山内(一四一七)

地形「川治」

- 物指  
さしき  
指洪
- …石岡市、井関(一四二四)
  - …岩井市、辺田(一四二四)
  - …勝田市、中根(一四二八)

差合  
…下館市、嘉家佐和(一四三三)

餌指町乙  
…下妻市、下妻(一四三五)

中居指  
…下妻市の大字(一四七三) 地形「下妻」

笠師前  
…土浦市、中掛(一四三九)

笠師  
…土浦市、中貫(一四四一)

サスバ(わ)  
…水海道市、大輪町(一四四九)

花指(はなさし)  
…阿見町、大形(一四五六)

花指(はなざし)  
…江戸崎町、大塚(一四六二)

花指(はなざし)  
…同、大塚(一四六二)

サスハ  
…同、月出里(一四六三) 地形「江戸崎」

座主田(ざぬしだ)  
…同、岡飯出(一四六七)

さすわ  
…同、飯出(一四六七)

サスワ山  
…大野村、田野辺(一四七六)

左須波(さすわ)  
…大野村、清水(一四七八)

差又(さしまた)  
…神栖町、知手(一四七八)

さす輪  
…同、高浜(一四七八)

切指(きりゆび)  
…大洋村、大蔵(一四八〇)

脇指(わきざし)  
…同、高浜(一四七八)

寺指場(てらしば)  
…同、高浜(一四七八)

イサシバ  
…同、冥賀(一四九九)

小手指(こてさし)  
…同、頃藤(一五〇〇)

小手指前(こてさしまえ)  
…五霞村の大字(一五〇一)

差合  
…五霞村、新幸谷(一五〇二)

指合  
…三和町、山田(一五〇六)

指合  
…那珂町、中台(一五二四)

サス合(さすごう)  
…同、西木倉(一五二四)

カナサシ  
…新治村、下坂田(一五四五)

ツルサシ  
…八郷町、柿岡(一五四六)

…同、真家(一五五二)

\*八郷町の小字は、すべてカタカナ書き。

- さす合(さすあい)
  - …茨城町、長岡(一五五九)
- サスワイ
  - …内原町、五平(二五六三)
- サシ
  - …小川町、小埜(二五六五)
- サシゾイ
  - …小川町、宮田(二五六六)
- 輪奈さし
  - …常澄村、塩ヶ崎(一五七二)

\*猿島郡・猿島町

千葉県

- 鶴指(つるさし)
  - …市川市、上妙典(一三六四)
- 鶴指(つるさし)
  - …市川市、下妙典(一三六四)
- サスワ
  - …市川市、若菜(二二六五)
- 指差向(さしむかい)
  - …市川市、北方(二二六五)
- 東差入(ひがしさしいれ)
  - …木更津市、茅野(一三八九)
- ザス山
  - …佐原市、福田(二四〇〇)
- サスワ
  - …佐原市、本矢作(二四〇〇)
- 差輪(さしわ)
  - …東金市、下武射田(二四〇九)
- 小差輪(こさしわ)
  - …東金市、北幸谷(一四一〇)
- 南指輪(みなみさしわ)
  - …東金市、幸田(二四一〇)
- 北差輪(きたさしわ)
  - …同、
- 指輪(さしわ)
  - …同、
- 差輪(さしわ)
  - …同、
- 差輪(さしわ)
  - …東金市、上谷(二四二一)
- 上座主坊(かみざすぼう)
  - …富津市、亀田(二四二七)
- 下座主坊
  - …同、
- 指向(さしむかい)
  - …松戸市、横須賀(二四二三)
- 矢差戸(やさしど)
  - …八日市場市、飯塚(二四三〇)
- さす畑(はた)
  - …八日市場市、内山(二四三二)
- 矢差戸(やさしど)
  - …大原町、大原(二四四三)

(千葉)	(茨城)	(栃木)	(埼玉)	
サスワ×2	サ斯巴			さすわ系
差輪×4	サスハ×2			
小差輪	さすわ			
南指輪	サスワ山			
北指輪	左須波			
指輪	さす輪			
	差合	差合×2		さすあい系
	指合×2	指合×2		
	サス合	差ス合		
	さす合			
	サスワイ			
	差又	サスマタ下		さすまた系
		指又		
		差間田		
		差又		
鶴指×2	ツルサシ	鶴差	鶴指×2	つるさし系
	小手指×2		小手指	こてさし系
	小手指前			
	餌指町乙	餌差	大江指	えさし系

- サスハダ
  - …栗源町、荒北(二四五七)
- ザス
  - …大栄町、村田(二四六〇)
- 差輪(さわ)
  - …大網師白里町、清名幸谷(二四七二)
- 矢差(やさし)
  - …蓮沼町、ホ(一四七九)
- 矢指(やさし)
  - …長柄町、山之郷(二四八八)

「さす畑」の「ハタ」には「端」も「幡」もある。視点を広げると、三原に見える「さす」は、焼き畑を意味する「さす」とは語構成に違いがみられる。

□□さす：焼畑系地名群(□□は、「黒」、「大・小」、「高」など)

さす□□：東関東の「サス地名」群(未詳。焼畑ではないと思われる。) それに三原全体を見渡すと、同語が少なからず見られる。

十、未詳「サス」についての仮説

考証が煩雑になるのを避けるため、予め一つの仮説を立てた上で、それを検証するようにして、論を進める。これら「サス」系の地名群から、同一の単語三つが抽出できる。その内二つは、以下の地名に対応しているのではないか。

- 落合川合流点 ……サスアイ(指合、差合)
- 川俣川分岐点 ……サスマタ(指又、差又)

一都六県の地形図に「サスアイ」、「サスマタ」は見えない。これは「サス」が「川」よりも小さい流れであることによるのではないか。

「サスワ」も地形図上では確認できない。この地名が集中している東金市の振り仮名は「サシワ」となっている。同市内にカタカナ書きの「サスワ」が二件見えることを考慮すると、振り仮名の誤りかもしれない。ただし、訛りの可能性も否定できない。

- アス(明日) || アシ、アズキ(小豆) || アジキ

東金

いづれにせよ、これら三語は「サス□□」型であり、焼畑系の「□□サス」型の語構成とは異なる。

また地勢からしても、利根川とその流域一帯は低湿地である。東金市東部も大河はないものの、九十九里浜へと続く低湿地である。

十一、「輪」という語

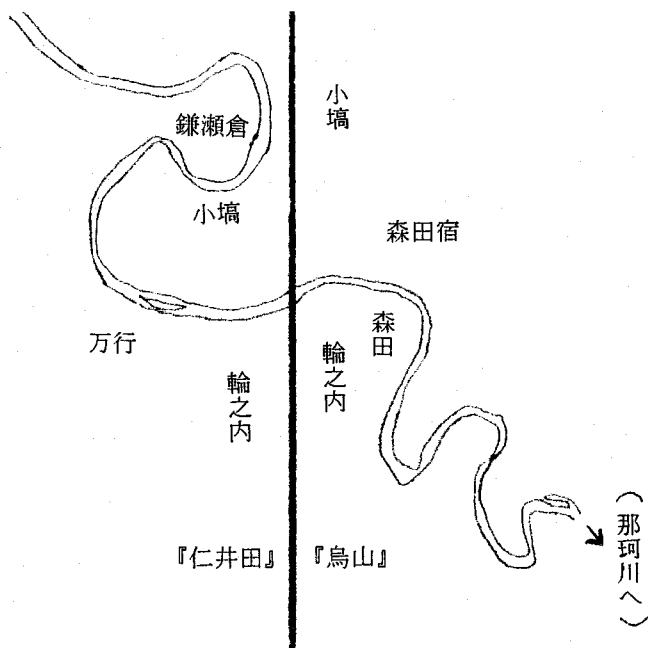
「サス」と「合」と「俣」は仮説によるとして、「ワ(輪)」の地名用語としての語義をつきつめてみる。

- 輪之内(わのうち) ……東金市、田間(一四〇八)
- 輪ノ内(わのうち) ……東金市、砂子瀬(一四一〇)

この語は、意味的にも地域的にもかなり広範囲で使用される地名のようである。ここでは水系を形容した例のみを挙げてみる。

- 輪ノ内 ……東流して琵琶湖に注ぐ安曇川の中州。
- 輪之内町 ……岐阜県の長良川と揖斐川にはさまれた地。
- 輪之内 ……『仁井田』、『烏山』

輪内 地形



河川の屈曲した内側か、中州(愛知県で言う「輪中」)である。「サスワ」は、したがって「細い流れが湾曲しているところ」の意で、「川曲(かわわ)」と同種の地形地名と考えられる。

この「サス」とは、「水をサス」の「サス」(他動詞)で、「注ぐ」の意と思われる。「潮がサス」(自動詞)も同じで、砂浜の割れ目のあちこちから急にサラサラと海水が満ちてくる様を言ったものであろう。表中の「サス地名」三語は後者(自動詞)である。

十二、「サシ地名」は存在するか

以上の仮説を「□□サシ」型の地名群にあてはめるとどうなるか。国文法的に  
いえば、「さし」は動詞「さす」の連用中止法であり、名詞相当語句となる。

多摩・神奈川・静岡にまたがる「カケサシ」…「崖地の細流」  
茨城県に三例が見える「花指（ハナサシ）」…「微高地の細流」

また、語表に挙げた二語、「つるさし」・「小手指」について、東北六県（アイヌ語地名との弁別難）と沖繩を除く全県の「小字一覽」を検索してみると、存在しないに等しい。

つるさし…鶴指鼻（つるさしばな） 〓鳥取県、松保村、布勢（二二二八）  
鶴差（つるさ） 〓愛媛県、越智郡、八幡村（二〇五七）  
小手指 …無し

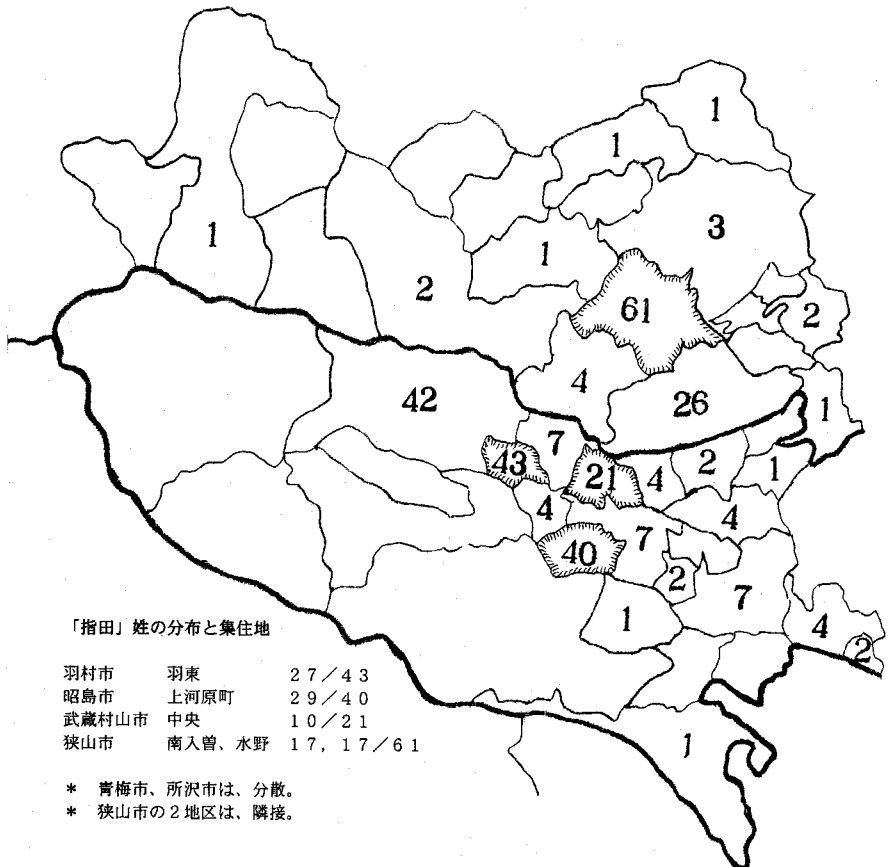
これらが関東の「つるさし」と同語とは考えにくい。「つるさし」六件・「小手指」三件は、その数こそ少ないものの、北関東に集中している地名と見ることができる。

「サシ□□」型の「指扇」・「差間」も、「サス」が動詞なら、いかようにも解釈できる。

「指田（サシダ、稀にサスタ）」という姓が、西多摩を中心にひろがっている。羽村の堰の管理で知られる姓だが、河田・浜田・沼田…のように「タ」は、それが存在する場所を示す接尾辞である。「指田」も地名だったはずであるが、西多摩一帯には残っていない。

地形図上で西多摩からいちばん近い「サシダ」は、伊豆半島南部の「差田」である。山間を流れる河川の合流点で、関東なら「落合・川俣」、「坏（阿久津）」などの地名が付けられるような場所である。

地形「石廊崎」



以上は屋上屋を重ねた憶測で、東関東の「サス地名」・「サシ地名」の全てに「細流」が当てはまるわけではない。たった一例だが、関西方面の「小字一覽」から抽出した地名群と一致する地名がある。

- 石指（いしざし） ……鳥取県、羽合町、上浅津（二二七九）
- 石（いし）サシ ……鳥取県、日野町、下榎（二一九九）
- 石（いし）ザシノ上（うえ） ……同



石指 (いしざし)	…鳥取県、溝口町、畑池 (二二〇二)
石差	…山口県、椛 (うつき) 小野町 (二二八三)
石指 (いしざし)	…山口県、徳地町、藤木 (二三六一)
石指 (いしゆび)	…岡山県、井原市、青野町 (二六一八)
石指	…岡山県、玉野市、高尾 (二六四〇)
石指 (ざし)	…岡山県、吉井町、布都美村、中畑 (二六六〇)
石指谷	…岡山県、川上町、三沢村 (二六八二)
石指日向	…同
石指下毛	…同
石指久保	…同
石指奥サイノ久保	…同
石指奥新ナシ	…同
石指奥東平	…同
石指指上へ	…同
向石指	…同
向石指小尻	…同
石指谷 (いしゆびだに)	…岡山県、柵原町、羽仁 (二六九八)
石指 (いしゆび)	…同
石指	…岡山県、鏡野町、山城 (二七一一)
石指 (ざし)	…岡山県、御津町、中畑 (二七六〇)
石指	…岡山県、和気町、本莊町、大中山 (二七五七)
石指 (いしざし)	…愛媛県、越智郡、八幡村 (一〇五七)
石指 (いしざし)	…高知県、土佐市、家俊 (二三八三)
石サシ	…同 西土佐村、藤ノ川 (二五一五)
石指 (いしざし)	…佐賀県、藤津郡、吉田村、殿ノ木庭 (一〇三五)

これら「イシザシ」が『日葡辞書』に見える「イシザシ」であることは、ほぼ間違いのないと思われる。

Ixizaxi イシザシ (石ぎし)  
Ixicaci (石垣) に同じ。石の塀、または、石の垣。 日葡

静岡県に見える「石 (いし) ザシ」は、距離的に飛び離れているため同一語と断定はできない。

『日葡辞書』の「ザシ」は、「サシつかえる」、「サシさわりがある」の「サシ」で、終止形の例を出せば「とザス」かと思う。「障壁」、「仕切る」の意である。更に、もう一つ別の語を挙げてみる。表の最下段の「エサシ」である。

江指	富山県、新湊市、片口新 (二二七三)
江指	同 高岡市、定塚 (二二七三)
江指廻	同 高岡市、野村、井口本江 (二二七五)
餌指揚割	同 大山町、福沢、奥の山 (二二九二)
長江指 (ながえさし)	同 戸板村、淵上 (二二八八)
餌差町	和歌山県、和歌山市、大新地区 (二三八三)
江指 (えさし)	岡山県、熊山まち、酌田 (二六五一)
餌指町 (えさしまち)	同 佐伯町、父井原 (一七四〇)
	大分県、下毛郡、中津町 (二一九八)

一時期の富山は朝廷と蝦夷との主戦場であった。

越辺蝦□数千内附 (□・虫偏に夷。内附・密かに朝廷側に付く。皇極紀元年) 越蝦夷、伊高岐那等、請俘人七十戸為一郡。乃聽之。 (天武紀十一年)

付記 加佐志墓苑他の施主名一覽 (「風下」音脱説への疑問)

- 1、\*印…「他」とは、窪川を挟んで墓苑の対岸に在る古碑の安置場。
- 2、判読可能なもののみ列挙。但し、干支不適合のものは除外。
- 3、奉納年月日不明または判読不能の場合、故人の没年を記した。
- 4、?印…石の風化度から、後世の再造と見られるもの。

お詫びと説明

墓苑に行ったのは、平成十三年五月五日のことで、公園形式の共同墓地と  
 思っていました。奥富家の方々には、深くお詫びも申しあげます。  
 加佐志村は、入植当初は「加佐次」、稀に「加左志」の表記もあったものの以後  
 六十年間は「加佐志」、その後「風下」説が出たかに見て取れます。

- |                     |    |                     |  |       |
|---------------------|----|---------------------|--|-------|
| 1 ? 風下村             | 奥富 | 慶安五年 <sup>壬辰</sup>  | 三月六日                                     | (一六五) |
| 2 ? 風口              | 奥富 | 天和元 <sup>酉</sup> 年  |  | (一六八) |
| 3 ? 風下村             | 奥富 | 天和三年癸亥              | 二月六日                                     | (一六八) |
| 4 * 加佐次村            | 奥子 | 元禄十三年辰              | 五月五日                                     | (一七〇) |
| 5 * 加佐次村            |    | 元禄十五年 <sup>壬午</sup> | 五月廿六日                                    | (一七〇) |
| 6 * 加佐志村            | 奥富 | 正徳元年 <sup>癸卯</sup>  | 五月十二日                                    | (一七二) |
| 7 * 加佐志村            | 奥富 | 正徳四年                | 六月八日                                     | (一七四) |
| 8 加 <sup>口</sup> 志村 |    | 享保元 <sup>酉</sup> 年  | 申 <sup>口</sup> <sup>口</sup> <sup>口</sup> | (一七六) |
| 9 * 加佐志村            | 奥富 | 享保九年 <sup>甲辰</sup>  |  | (一七二) |
| 10 加佐志村             | 奥富 | 享保十七年 <sup>壬子</sup> | (没年)                                     | (一七三) |

- 11 施主 加佐志村 奥富：  
 国文元丙辰天《没年》 (一七三六)
- 12 施主 □佐志村 □□：  
 元文五庚申、十一月六日 (一七四〇)
- 13 施主 加佐志村  
 寛保三癸亥天《没年》 (一七四三)
- 14 施主 加佐志村 奥富：  
 宝曆七<sup>四</sup>天 七月五日 (一七五七)
- 15 \* 施主 国下村 奥富：  
 宝曆十二<sup>午</sup>天 二月二十七日 (一七六三)
- 16 \* 国下村 施主 奥富：  
 明和六己丑天 十一月十六日 (一七六九)
- 17 施主 国下村 奥富：  
 明和八<sup>四</sup>天 八月十七日 (一七七二)
- 18 ? 国下村中《地藏尊の台座》  
 安永十三歳 二月吉日 (一七八四)
- 19 国志村  
 天明三癸卯年 (一七八三)
- 20 \* 加佐志村 施主 奥富：  
 寛政八辰天 十一月十八日 (一七九六)
- 21 武州入間郡加佐志村《立像》  
 寛政十一歳未 二月吉祥日 (一七九九)
- 22 国下村 奥富：  
 文政七甲年 十一月廿五日 (一八二四)
- 23 加佐志村 施主 奥富：  
 文久三亥年 (一八六三)